

後藤純男 日本画家

後藤純男は、1930(昭和5)年1月、東葛飾郡木間ヶ瀬村(現在の野田市)の真言宗の寺の住職の次男として生まれました。1946(昭和21)年、日本画家・山本丘人に師事。1947(昭和22)年から5年間、埼玉県内の小・中学校で教職に就きながら創作を続け、1949(昭和24)年に田中青坪に師事し、1952(昭和27)年には、再興第37回日本美術院展覧会(院展)に出品した「風景」が初入選し、教員生活を終えます。

1955(昭和30)年ごろから1963(昭和38)年まで関西、四国の真言宗の寺を巡ってスケッチ旅行し、1960(昭和35)年ごろから1969(昭和44)年ころまでは北海道各地を取材しました。1962(昭和37)年に流山町(現在の流山市)に転居し、1965(昭和40)年に再興第50回院展で「寂韻」が日本美術院賞・大観賞を受賞、1974(昭和49)年に日本美術院同人に推挙され、1976(昭和51)年に再興第61回院展で「仲秋」が文部大臣賞を受賞。1979(昭和54)年に現代日本絵画展代表団の一員として初めて中国を訪問。これを機に、毎年のように中国へスケッチ旅行に出かけ、その活躍の場も大きく広がっていきます。

1981(昭和56)年に、コーヒーのCMに一年間起用され、全国的に知られるようにもなったり、1986(昭和61)年に、中国・西安美術学院名誉教授や1988(昭和63)年に東京芸術大学・美術学部教授に就任したりと益々活動の舞台を広げます。



20代に描きあげた「磐梯」

さらに1997(平成9)年、東京芸術大学を退官後は、北海道上富良野町に「後藤純男美術館」を開設(新館は2002年落成)。2000(平成12)年、埼玉県松伏町名誉町民に、2005(平成17)年、中国・湖南省張家界へ取材旅行。年末から2006(平成18)年にかけて、東京・日本橋三越本店を皮切りに「喜寿記念 後藤純男展」を開催。2006年には、春の叙勲で「旭日小綬章」を受し、2012(平成24)年、横浜そごう美術館で「後藤純男美術館開館15周年記念 画業60年 後藤純男展」を開催。

2016(平成28)年には、東京芸術大学名誉教授、上富良野町特別名誉町民、千葉県流山市名誉市民に推戴されました。しかし同年10月18日、数々の画業を残され、86歳で死去されました。

なお、今回展示の『磐梯』は画伯が20代のころに描かれた作品です。ちなみに後藤画伯は第1回目の個展を1961(昭和36)年4月26日から同月30日まで当館地下ギャラリーで行っていることが本会の記録に残っています。また、もう一点の「鹿苑寺庭園」は1999(平成11)年にMMG版画工房で380枚制作されたリトグラフ(38版38色)で、画面右下に直筆の署名が入っています。その後、この作品は人気があるためか、ファインピグメントスクリーン(デジタル版画)として画伯の没後にも500部作成されています。

[参考資料] 『後藤純男美術館ホームページ』／『興風会館物語－醤油の町のロマネスク』山本文男・(財)興風会・2005年12月20日発行／『広報ながれやま』平成28年10月11日号・流山市



タイトル「鹿苑寺庭園」